

全速力で進展する プロジェクト事業



市では、発展のための重要な課題である都市基盤整備を進めるため、高等教育機関の誘致、多目的ドームや老人福祉総合エリアの建

設、地方拠点都市地域としての整備、大館能代空港の開港など、『5大プロジェクト・3大対策』を掲げて、その推進に力を入れています。

7年度は、秋田桂城短期大学や多目的ドームの建設など、『5大プロジェクト・3大対策』が全速力で進展する年です。6年度は、鉱山の閉山、小坂鉄道旅客営業の廃止、企業の倒産など、大館市や近隣町村にとって非常に厳しい年でしたが、7年度は逆に、これまでの厳しさを一気にばん回する年だと思っています。また、雇用情勢が厳しいという現実もあります。雇用の場の開発を併せて進めていくことも、今年度の最重要課題の1つだと考えています。

21世紀を展望し、県北の中心都市として「職・住・遊・学」が備わった魅力あるまちづくりを目指して努力します。季節は今まさに春。7年度は、これまで市民と一緒に進めてきた「活力あふれる大館をつくる」という目標が、着実に花開く飛躍の年にしたいと思います。

小 畑 元

雪沢中学校が閉校

— 東中学校に統合 —

雪沢中学校が6年度を最後に43年間の歴史に幕を閉じ、4月1日から東中学校に統合されました。これまで特色ある独自の校風を築いてきた雪沢中学校の灯は消えましたが、新たに東中学校の中に生き続けます。

昭和二十七年に長木中学校雪沢分校として開校した雪沢中学校は、二十九年に市立雪沢中学校として独立しました。長木川の清流と豊かな自然環境に囲まれた雪沢中学校は、雪沢地区住民に愛され続け、地域文化の中心的役割を担ってきました。同校はこれまで、長木中学校雪沢分校時代を含め、九百四十四人の人材を育成して社会に送り出しています。

しかし、雪沢地区は近年、過疎化が進むなかで生徒数の減少が続き、昨年度の雪沢中学校の卒業生は六人しかいませんでした。学校教育は単に知識や技術の習得だけでなく、生徒会活動や部活動など学校の集団活動を通して人間形成を培う場でもあります。適正規模の教育環境による教育効果などを

考慮し、四月一日から雪沢中学校を東中学校に統合しました。

最後の卒業式が行われた三月十二日には閉校式も行われ、生徒、教職員、地域住民などが参加して、閉校する雪沢中学校との別れを惜しんでいました。



在校生に「東中でも頑張れ」と励ます卒業生(雪沢中卒業式で)

神戸市へ市職員を派遣

医療保健活動などで支援

兵庫県南部地震によって被災した兵庫県及び兵庫県下各市町から全国の地方公共団体へ、復旧事業等支援のため職員の派遣要請がありました。市では神戸市へ医療技術職員などを派遣し、復旧活動に対する支援をしています。

一月十七日に発生した兵庫県南部地震により、五千人以上の尊い生命が奪われるなど、戦後最大の惨事に見舞われた被災地では、復興に向けて懸命に作業が進められています。神戸市などでは、被災者の仮設住宅を建設するなど対応に全力を挙げていますが、地震発生から二ヵ月半を経過した現在、いまだに避難所で不自由な生活を余儀なくされている人たちがたくさんいます。

国や被災地では各地方公共団体や民間団体等に対して、医療、建築・土木などの専門的職種をはじめ広範な職種にわたって、災害復旧事業への人的支援を要請していました。市では厚生省の要請を受けた自治体病院協議会と県の依頼により、被災地での救護活動を支援するため、市立病院から医療技術職員を神戸市へ派遣しました。派遣した職員は、医師一名、薬剤師一名、看護婦二名の合計四名で、三月十二日から十八日までの七日



市では先に、被災者の皆さんの救済と被災地の復興に役立てもらうため見舞金を贈ったほか、義援金の募金活動を行いました。今後、復興を目指す被災地に対して、人的援助を含めできる限りの支援をしていきます。